

イスラマバードから見たパキスタン  
—国際社会の期待とパキスタンの現実—  
(パキスタンに対する理解を深める7つの質問)

平成20年10月27日

はじめに

国際社会の期待とパキスタンの現実の間の乖離の存在  
パキスタンに対する日本の理解（「アジアの火薬庫」、「混迷を深めるパキスタン」等）  
回答部分は引用か、私見か、試論。

1. ザルダリ政権の将来をどのように見ていったらよいか。

ベナジール・ブットー政権（98. 11. - 90. 8. 及び93. 10. - 96. 11.）との異同（大統領と首相との関係を含む。）、PPPの統一、ナワズ・シャリフ元首相との関係、野党の動き、軍との関係（核政策、アフガン政策、人事・予算等を巡る関係）、軍・ISIの対応、米国等との関係、解任裁判官復帰問題、大統領の議会解散権の行方、経済危機への対応

11年周期からの離脱は可能か？

2. パキスタンにおいてこれまで民主制が定着しなかった理由は何か。軍人が国家元首を務める政権が独立後30年以上続いた理由は何か。民主化定着の鍵は何か。

民主制が定着してこなかった理由：パキスタンを取り巻く安全保障環境と軍の高い地位、「民主的な軍」と「非民主的な政党」というイメージ、軍事クーデタの性格、真の全国政党の不在、復讐政治、「腐敗？」

民主化定着の鍵：国民意識の向上、司法独立の確保、市民社会の発展、メディアの発展、貧困削減

3. パキスタンにとって国家の一体性を維持するための鍵は何か。

貢献する要因：イスラム教、安全保障環境、軍の存在

拡散をもたらす要因：各州間の多様性、国家としての短い歴史

鍵となるもの：政府への信頼、地方自治の推進、税収・資源収入の公正な分配、経済発展という共通成功体験

4. パキスタンにおいてテロ問題が深刻化したのは何故か。これまで対話路線が成果を上げることができなかったのは何故か。パキスタンはテロとの戦いで勝利を収めることができるか。

テロ問題深刻化の要因：70年代のイスラム化、80年代のタリバン化、ムジャヒディ

ン支援、マドラサの存在、貧困・失業・不平等、「ルート・コース」

対話路線が成果を上げるための条件：強い立場からの交渉、部族の関与、モニタリング

テロとの戦いに成功するための条件：国民の間のコンセンサス（議会同委員会での14項目決議）、米国等との共通理解

解決の方策：政府が取り組んでいる3つの柱、マドラサ改革、FATA開発、アフガニスタンとの共同の取り組み

即効薬はあるか？

## 5. パキスタン経済が危機を繰り返すのはなぜか。パキスタンは経済危機を克服することができるか。

経済の脆弱性：建国時の産業基盤の欠如、強力な輸出産業の欠如、外国投資・援助に頼る経済構造

将来の可能性：産業の多様化、投資環境の整備、人材育成、農業の振興

## 6. パキスタン外交を規定する要因は何か。外交政策を決定しているのはどのような組織か。

規定要因：パキスタンの独立の維持と経済発展の確保

各国それぞれに期待するもの：米国、欧州、サウジアラビア、イラン、アフガニスタン、中国、そして日本

プレーヤー：大統領、首相、外相、首相顧問、軍、ISI等

## 7. 日パキスタン関係に将来はあるか。

パキスタンの将来をどう見るか。（パキスタンは依然N11か。）

日本の輸出先・投資先としてのパキスタン

パキスタン製品にとっての日本市場

インフラ支援対象の拡大と援助モダリティの多様化？

南アジアへの地域的アプローチ